

2013年、パキスタンのパン  
グーにて、帝王切開で取り  
上げた赤ちゃんと一緒に記  
念写真を撮るMSFの吉野さ  
ん。産婦人科医としての経  
験が豊富な



医療ジャーナリスト

伊藤隼也が行く！

ニッポンの医療現場 第61回

## 「国境なき医師団」とは 志を持ち世界で活躍する 日本の医療者の姿

西アフリカでアウトブレイクしたエボラ出血熱は欧米に飛び火し、わが国でも対岸の火事ではなくなっている。多くの人が、現地で積極的に支援活動続ける「国境なき医師団」について耳にしたのではないだろうか。彼らの活動を通じて見えるものは何か。一人のMSFスタッフの医師を取材した。

恵まれない人を助けたい  
小さい頃の夢を叶える

紛争や災害、貧困などに  
よって命の危機に瀕してい  
る人たちに医療を提供す  
る、非営利で国際的な民間  
の医療・人道援助団体であ  
る国境なき医師団（MS  
F）は、1971年に医師  
とジャーナリストによって  
設立され、99年にはノーベ  
ル平和賞を受賞している。

海外派遣スタッフの数は  
約6000人。日本にも事  
務局があり、日本人医師や  
看護師などがアジアやア  
フリカなどの、紛争や貧困の  
ために十分な医療を受けら  
れない地域に赴いている。

エボラ出血熱に限ら  
ず、紛争やテロ行為、ある  
いは感染症などの危険と常  
に隣り合わせのなかで、援  
助を続けるMSF。外科医  
の吉野美幸さんもスタッフ  
の一人として、ナイジェリ  
アやパキスタン、アフガニ  
スタン、パレスチナ自治区  
（ガザ地区）で手術などの  
外科治療を行ってきた。

小さい頃から「恵まれな  
い地域の人を助ける仕事を  
したい」と考えていた吉野



取材時の吉野さん。想像とは違っ  
て立派な女性だった

間、医師が一人減るわけ  
ですから、その分ほかの医師  
がたいへんになる。それで  
も嫌な顔をせず見送って  
くれ、帰ってくるまで温かく迎  
えてくれます。こういう病  
院が増えれば、海外活動を  
する医師ももっと出てくる  
のではないのでしょうか」

吉野さんへの取材で強く  
印象に残ったのは、彼女が  
なぜ医師になったかという  
動機だ。我が国で医師にな  
るには、最難関の偏差値競  
争を勝ち抜かなくてはなら  
ず、高額の公費も投入され  
ている。しかし、そうして  
生まれた医師は、社会から  
尊敬されるような仕事をし  
ているだろうか。患者を顧  
みず、高学歴、高収入とい  
うプライドにしがみついで  
いないだろうか。少なくとも、  
医師を志すなら真に人  
を救いたいという「強い  
志」が必要である。社会も  
それを望んでいる。



パキスタンの現地スタッフに招待されたディナーパーティにて

「痛い、痛い」と  
大泣きしていた子ど  
もが治療で元気にな  
って、ご飯をパクパ  
ク食べるようになったり、走り回ったり  
する様子を見ると、  
本当によかったなあ  
と思いますし、次の

仕事の原動力にもなってい  
ます」  
MSFの活動で見えた  
日本の医療の問題点  
今回、吉野さんへの取材  
を通じて見えたのは、日本  
の医療の光と影だ。  
十分な医療機器などがな  
く、衛生状態も悪い現地  
で、MSFで行っているの  
は、極めてシンプルな医療  
だ。そのような状況で、手  
術をすれば傷も大きくなる  
し、場合によっては不自由  
さが出ることもある。それ  
でも命が助かれば、本人は  
もとより家族からは、感謝  
の言葉が出てくる。それが  
吉野さんのもとより、多く  
のMSFスタッフのモチベ  
ーションにもなっている。  
翻って、医療先進国であ  
る日本では、単にケガや病  
気を治すだけでなく、見た  
目やQOL（生活の質）ま  
で考慮した最先端の手術を  
受けられる。しかし、過剰  
な労働や患者からの訴訟を  
恐れて医療に集中できない  
医師も多い。吉野さんも  
「医師が疲れている」と感じ  
るそうだ。  
「よかれと思ってやってい

ることなのに、なぜか周りに  
対してビクビクしていた  
り。医療とは関係ないとい  
ろで苦勞をしている感じを  
受けることがあります」  
医師の働き方自体も、制  
約が多い。  
例えば、吉野さんはMS  
Fのスタッフになる前、外  
科と産婦人科で技術を身に  
つけたが、それは前述のと  
おり極めて異例だ。日本の  
医療界では、餅は餅屋、  
という考えがあり、別の診  
療科の技術を身につけるこ  
とに理解が得られにくい。  
吉野さんは熱意でハードル  
を乗り越えたが、それはな  
かなかできることではない。  
さらに、日本ではMSF  
などの国際援助活動と病院  
勤務を並行することが難し  
い。活動に参加するのをあ  
きらめる医師や、年に1カ  
月だけと限定して参加する  
医師もいる。吉野さんは、  
1年の約半分をMSF活動  
にあて、残りは関東にある  
病院の勤務医として働いて  
いるが、勤務先の病院は、  
専門の仲介業者を通じてよ  
うやく見つけた。  
「とても理解のある病院で  
す。私が海外に行っている